

第 10 期 松戸市緑推進委員会

第 2 回委員会

1. 日時 平成 30 年 10 月 19 日 (金) 10:00~12:00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館 5 階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・平岡 考・木下 剛・小谷幸司・高橋 清・高橋盛男
真嶋好博・上野義介・高橋 節・藤田 隆・森 令子・横山 元

○松戸市

福田勝彦 (街づくり部部長)
布施 優 (21 世紀の森と広場管理事務所所長)
米澤和宏 (みどりと花の基金事務局長)
竹内茂樹 (公園緑地課長補佐)
中野貴弘 (みどりと花の基金事務局長補佐)

○兼事務局 (みどりと花の課)

岸 秀一 (課長)・三末容央 (専門監)・稲吉かなえ (主査)・井上毅 (主事)
和宇慶さやか (技師)

○LAU 公共施設研究所 (松戸市緑の基本計画策定委託受託者)

牧野・吉岡

○傍聴 なし

※ 事務局より本委員会の成立について、委員 14 名中 12 名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

1 議事

- 1) 前回委員会の議事要録の確認について
- 2) 緑の基本計画策定について
 - ・策定体制とスケジュールについて
 - ・アンケート調査の実施について
 - ・基本計画の方向性について

3) その他

1 連絡事項等

1 閉会

■議事

1) 議事 前回委員会の議事要録の確認について

会長

ただいまより、第2回松戸市緑推進委員会を開催します。

議事1)の前の議事要録の確認についてですが、事務局から事前に送付した議事要録に意見・指摘事項等あるか。

無ければ議事要録として承認してよいか。

—承認—

議事2) 緑の基本計画策定について

事務局

第10期委員会の主な議題は「松戸市緑の基本計画の策定」となることから、前回の委員会から、今日までの間に、会長をはじめとした一部の委員、前回から委員会に出席している策定業務委託先のLAU公共施設研究所とも協議を重ねた。

本日は本委員会の関わり方について、これまで緑推進委員会の意見等も踏まえ、「体制」や「スケジュール」、また「市民からの意見聴取方法」、計画の組み立て方についてのたたき台を準備した。配布資料を確認し委員の意見をいただきたい。

配付資料

資料1-1 「松戸市緑の基本計画策定における緑推進委員会の位置付け」

資料1-2 「策定スケジュール」の案

資料2 アンケートの設問内容について

資料3-1 これまでの推進委員会における基本計画に関わる意見を整理した資料

資料3-2 これから計画の骨子をつくるにあたってのたたき台の資料が複数枚

資料3-3 「みどりと暮らす豊かさ」についての資料

参考資料 「松戸市の緑の現況」や「緑に関わる市民意識調査の結果」

議題 3項目

① 策定体制とスケジュールについて

② アンケート調査の実施について

③ 基本計画の方向性について

① 策定体制とスケジュールについて

事務局

今後約2年をかけ「緑の基本計画」をつくる過程で、緑推進委員会がどう関わっていくか、特に関わっていただきたい作業を資料1-1で示した。

次期「緑の基本計画」の策定では「市民の声」を大事にし、特徴の一つとしたいと考えている。

「市民の声」をどのように集めるかについて検討し、大きくオレンジ色で網掛けをした4つの方法を提示する。

「市民アンケート」は、一般的な市民の考え方の傾向を把握するためのものであり、千葉大学の協力のもと実施する。

「意見募集」は広報やHPを通じ広く市民の自由意見を求める。

「みどりのサロン」ではみどりの市民力として松戸の緑を支えるボランティアの意見を聴く。

「松戸の子ども100人に聞きました」は子どもたちにとっての緑を如何にするかを考えていく。

「みどりのサロン」「松戸の子ども100人に聞きました」について、緑推進委員会「みどりのサロン」部会を立ち上げ、ボランティアの意見や子どもたちのための意見をどのように吸い上げ、基本計画に反映させるかの検討を進めたい。

本日は、この部会設置の承認と緑推進委員会によるメンバーの推薦をお願いしたい。

会長

これについての意見をいただきたい。

委員

資料1-1 下段の ※2「庁内策定委員会」と「庁内策定作業部会」のはどのように分かれているか。

事務局

「緑の基本計画」は松戸市が策定するものであり、庁内に2つの組織が存在することを書いている。

委員

了解。

委員

今回は「市民の声」を目玉しており、とても良いと思うが、どの自治体でも意見募集を行うと60代以上の意見が中心になってしまうが、20～30代の意見を拾える作戦はないか。

事務局

確かに意見を寄せる市民は60代以上の方が多くなるかもしれないが、それを踏まえ「みどりのサロン」部会では、里やまや花壇づくりのボランティア活動をしている方や、公園の利用者として子どもやその親御さんの意見を収集する方法も検討していきたい。他市等での有効な情報があれば聞きたい。

委員

無作為のアンケートでも属性などで調整を行う場合が多いが回収率は減る。広報やHPでの反応はあまり期待できない。20～30代を狙いたいのであればフェイスブックやインスタグラムで情報提供をする方法がよいのではないか。

委員

私も「市民の声」の拾い方には工夫が必要だと思う。予算がどれだけかけられるか。ある程度の誘導施策をして、対応ができない極端な意見や要望を回避する。アンケートの質問内容は材料になり得るものとなるように仕組む必要がある。

会長

「緑の基本計画」策定では市民アンケート調査を行うことが多いが、広報やHPでは意見募集の成果が上がらない。パブコメはその時点で意見の反映は困難であり、意見募集には工夫が必要となる。「緑と花のフェスティバル」では、スタンプラリーで景品を渡す際の投票のように、子どもを連れた親から収集できる。今回の特徴は、「サロン」での意見収集を一般の市民ではなく既に活動して意見を持っている市民（里やま、花壇ボランティア、子育てグループなど）から集めることであり、その「サロン」を如何に運営し市民の意見を集めるかを考えたい。

委員

LAUの委託には「緑の基本計画」の内容や方向性も含まれるのか。

事務局

基本計画は行政が策定するが、そのために必要な助言、最新の他市町村の事例など専門的な部分での支援を専門のコンサルタントに委託している。

会長

緑推進委員会の役割は、専門家会議や市民の意見を取りまとめた事務局からの素案や部会の進捗状況等の報告に対して意見をすることにある。

「みどりのサロン部会」では、特に「ボランティア活動団体」や「子育てグループ」の声を聴く場を設け運営していくことになり、メンバーの構成、意見をどのように誰に聴くのか、またサロンを説明会形式で行うのかワークショップ形式なのか、基本計画にどのように反映させるのかを検討する。

部会により取り上げられた市民の意見と、市民アンケート結果や専門会議を踏まえた事務局からの提案とを緑推進委員会の中で戦わせて作り上げていくプロセスを考えている。

部会の設置については、これまで緑推進委員会では特定のテーマを検討する時に部会を設置しそこで実際に議論や企画、場合によっては実践まで行ってきた。これは松戸市緑推進委員会の特徴の一つであり、メンバーは委員会の有志、委員会以外の人材（みどりと花の課や委員から推薦）により構成される。

アンケート以外に市民の意見をどう聴くかの検討や、場のセッティング等の運営を行う部会となる「(仮称)みどりのサロン部会」の設置を承認するか。

—承認—

会長

部会のメンバーになってもいい委員はいないか。

— 4名の委員 が挙手 —

会長

4名の委員の皆さん、ありがとうございます。よろしく申し上げます。

他の委員もいつでも参加を待っている。

委員

ターゲットングについて。意見収集として、花壇、里やま、子育ての他に聴くべきところを拾い上げたほうがよい。学童、自治会、公園のグループなどの不特定ながら重要と思える集団で、例えば、公園清掃をしている委員が所属するような自治会の「かたまり」も拾い上げたい。

会長

先日、私も自治会主催の公園清掃をしてきたが、そのようなローカルなところの意見も拾いたい。市民アンケートでは必ずしもローカルなところの意見は拾えないことは検討課題である。それについて意見はないか。

委員

先程より、高齢層に含め若い層にアンケートをするという意見があったが、ボランティアのメンバーの多くは高齢者が占めている。町会を含めた活動団体の意見を取り込んでいくことに賛成する。

会長

声掛けをする対象の集団は商店街や観光系の団体であってもいい。

委員

公園の管理は 60 代もほとんどなく、70 代が中心となって行っている。公園利用する若い人の多くは子どもを連れのお母さん。若い人の意見を取り入れるのは容易ではない。

会長

そういう見方もある一方で、若い人はいろいろなところで繋がっていて、子育てグループがメインであるが、樹林地で遊んだり、里やまグループに竹細工を教わっている。アンケート上では自分たちは子育てが忙しく動けないが、イベントの参加料を払ったり、片づけくらいならできるとい人もいる。人口における高齢者の割合は大きく、それも含めた意見収集が必要だ。

委員

市のアンケートは堅い。数か月前に市から高齢に伴う支援に関するアンケートが届いたが、市が仕事をし易い結果が得られるような質問に偏っていると感じた。そのようなアンケートより市のボランティアの意見や公園に遊びに来ている母親の意見を、より多く吸い上げる方法がよい。またアンケートの期間として可能かどうか分からないが、里やまのイベントに訪れる人に対してや、根本内歴史公園で行うイベントに参加する若いお母さんが多くなったが、その時に行うアンケートであれば実感が得られる。

委員

アンケートは全体の傾向を見るため、個々の要求を吸い上げるためではない。アンケートとサロン両方での意見収集はバランスが良い。

会長

委員の意見のように、「緑の基本計画」で行う普通のアンケートとは違う意見を得るためにサロンという発想が出てきた。サロンでは一般のアンケートでは拾えない意見をどう拾うかを考えてほしい。

ここままで、部会の設置の承認と、手をあげていただいた 4 人のメンバーを中心に補充をしながら「(仮称) みどりのサロン部会」を運営していくことを了承されたい。

—承認—

事務局

推進委員会のスケジュールを**資料 1-2**で示している。本日 10/19 の委員会、11/16 (金) に午後半日をかけて第 3 回委員会として市内の視察を行う。12/21 (金) と 1/25 (金) は午前中に開催。3/27 (水) は午後開催を予定している。

専門家会議では、基本計画の方向性や具体的計画内容の提案に合わせ、委員会ではどのような議論をするのか相談・協議をする。これは本委員会の柳井委員、木下委員、小谷委員、また必要に応じてその他の有識者にも相談しながら随時実施していきたいと考えている。

「みどりのサロン」「子どもアンケート」では先ほどの部会を設置し、メンバーが決まり次第、何をやるのか、いつやるのかを協議する。その進捗は委員会開催毎に報告をし、委員に意見を聴く。また、先日子どもたちとみどりの接点を探すため、21 世紀の森と広場で開催されている「森のこども館」に合わせ、委員の協力をいただき、子どもとその親に聞き取りを実施した。聞き取りの結果についてみどりと花の課より報告する。

みどりと花の課

アンケートは 10 月 6 日土曜日の午前 10 時～午後 2 時、場所は 21 世紀の森と広場、対象を「森のこども館」に遊びに来ていた子どもとその保護者、その他にザリガニ釣りや芝生広場で遊ん

でいる子どもとその保護者を対象とした。

調査の目的は、子どもたちの遊びが「みどり」とどのような関わり合いを持っているのか、子どもたちと「みどり」との接点を探るため試験的に調査を行った。

資料：～松戸子ども 100 人に聞きました～ みんなの遊び場について教えて！

《アンケート（実際にはヒアリングに近いもの）調査内容》

5 つの質問

1 つ目は、「いつも遊んでいる場所と、そこで何をして遊んでいるのか」

2 つ目は、「いつも遊んでいる場所で起きた 困ったこと」について

3 つ目は、「好きな場所や楽しいと思う場所」について、

4 つ目は、「公園などでやってみたいこと、できたらいいなと思うこと」

5 つ目は、「あなたの好きなみどり」についてで、3・4・5 の質問については、子どもと保護者のそれぞれに聞いた。

《アンケート結果》

資料：平成 30 年度 松戸市緑の基本計画策定業務 子どもアンケート調査

回答者数は子どもと保護者を 1 組と数え 25 組。

回答

1 つ目の質問、「いつもどこで遊んでいますか？ そこでは何をしていますか？」には、平日、土日とも、公園、自宅又は友達の家。

2 つ目の質問では、遊ぶ場所、結果的に公園ばかりになったが、「遊ぶ場所で何か困ることがあるか？」の質問には、遊びたい遊具が無い、トイレが無いなど設備に関しての回答が多くあった。遊び場が家から遠くて困るという回答は 1 件で、ほとんどが自宅の近くに公園があるようだった。

3 つ目の質問では、保護者は子どもたちには安全な場所で遊んでほしいと考えていることもあってか、道ばたや空き地で遊んでいるという回答はなかった。また低学年の回答が多かったことから、外ではなく、自宅や友達の家でゲームをして遊んでいるという回答が多数あった。外での遊び方では、遊具、ボール遊び、鬼ごっこ、縄跳びなど体を動かす遊びが多かったが、中には虫取りというみどりに直結する回答もあった。

4 つ目の「公園などでやってみたいこと、できたらいいと思うことは何か？」については、子どもたちは遊具で遊びたいという意見が多い一方で、保護者の方からは、自然の中で自由に遊んでほしい、自然の中で遊びを見つけてほしいという意見があった。

質問 1. 2. 4 の回答から、日常的な遊び場としては、やはり公園が必要とされているようだ。

また、「公園で何をして遊んでいるのか、また困っていることは？」では遊具等の施設に頼っている現状があるように感じた。3 つ目の「好きな場所や楽しい場所は？」と「最後のあなたの好きなみどりは何か？」の質問に、何をどう答えていいのか分からなくて困惑する人もいた。

5 つ目の「好きなみどりは何ですか？」では、「みどりととは何か？」という質問をする人もいた。この試験的聞き取りアンケートでは、設問が悪かったせいか、思ったほどみどりと遊びの結びつきを読み取れなかった。

事務局

私も何人かの親子連れに聞き取りをしたが、子どもは「みどり」と他の遊びとの区別はなく、結果的には「みどり」を生活の中で意識するのは、やはり高学年くらいにならないと無理ではないかと感じた。この反省も踏まえ「みどりのサロン部会」で、みどりの市民憲章にある「子

どもたちの夢とあそびを受けとめるみどり」を、どのように基本計画の中で書き込んでいくかの検討もお願いしたい。

会長

私も当日別件で現場にいたが、休日の聞き取り調査、お疲れさまでした。

子どもたちとみどりについては、こうした課題も踏まえ今後サロン部会で議論することになる。

「子どもアンケート」について質問はないか。

委員

聞き取りの結果に「水遊び」の要望があるが、じゃぶじゃぶ池のような施設化されたものなのか 21 世紀の森と広場にある自然な小川のような場所なのか分からないが、水遊びをしたい子どもが非常に多い一方で、保護者の希望は自然の中での遊びが目につく。水施設の導入は難しいが、期待が強いことを改めて認識した。

21 世紀の森と広場管理事務所

森のこども館のイベントでアンケートに答えた人は、そのようなことに興味を持った人であり、そのような属性にあると考えられる。公園ではトライアルとして農村空間を再現し湿地を作り泥んこ遊びを行ったことがあるが、泥んこ遊びをしたい子どもの欲求に対する保護者の拒絶反応は強い。足洗場など水施設を設けるなど経過を観察しているがあまり多くの利用者はいない。

「水遊び」はテーマとして公園でも取り組んでいきたいと考えている。

委員

保護者欄が「子どもにやってもらいたいこと」であれば、安全で安心して遊ばせられる公園が欲しいが、そこからちょっとはみ出しているところへの入口は無いという感触を受けた。

委員

オープンフォレストやこのアンケートの小学生、また学童でアンケートを行って子どものやりたいことが分かります。でもそれが実現困難な場合、例えば私たちが子供の頃にやっていた今の松戸の森では許されない秘密基地のようなものが考えられるが、子どもたちの意見をどのように取り入れられるのかは難しい問題。

② アンケート調査の実施について

事務局

今回の「緑の基本計画」策定にあたり 3,000 人を対象に市民アンケートを実施し、千葉大学園芸学部の協力をいただけることになった。アンケートについて LAU から説明をする。

《委託先の LAU 公共施設研究所からアンケートの説明》

LAU

「緑の基本計画」全般に関して松戸市のお手伝いをする。よろしくお願いします。

資料 2：松戸市の「みどり」についてのご意見をお寄せください。(アンケート)

先程来アンケートについて様々な意見が出ていたが、一般的な市民の傾向、「みどり」を市民がどう捉えているかを把握する。計画全般の指標、計画をどう進めるかについてもアンケートで把握していくことになる。今回千葉大学に協力を得てアンケートを実施することになり、大学の研究にも役立つのではないかと考えている。

アンケートの設問は全部で 28 問を考えている。

- ① お住まいの地域に「みどり」が多いか。
- ② 普段どのように「みどり」と関わっているか。

- ③ 子どもの頃の記憶にどんな「みどり」が残っているか。
- ④ 普段どんな「みどりの働き」を実感しているか。
- ⑤ お住まいの地域で大切にしたい「みどり」は何か。
- ⑥ お住まいの地域にどんな場所があればいいか。
- ⑦ 次世代に継承したい松戸の「みどり」は何か。
- ⑧ 普段公園をどのくらい利用するか。
- ⑨ 公園で何をしているか。
- ⑩ 公園をどのように思っているか。
- ⑪ 松戸を代表する公園の中で「よく利用する」「お気に入り」「行ったことがない」公園はどこか。
- ⑫ 街路樹で良いと思うことは何か。
- ⑬ 街路樹で問題だと思うことは何か。
- ⑭ 街路樹について必要だと思うことは何か。
- ⑮ 身近に管理放棄された樹林地、農地、空き地はあるか。
- ⑯ 樹林地、農地、空き地にどんな問題があるか。
- ⑰ 管理放棄された樹林地、農地、空き地をどのようにすべきと思うか。
- ⑱ 知っている「みどり」の施策は何か。
- ⑲ 「みどり」の施策として何が必要か。
- ⑳ 「みどりの働き」で重要だと思うことは何か。
- ㉑ 「みどり」を守り育てる主体として相応しいのは何か。
- ㉒ 現在参加している「みどり」の活動は何か。
- ㉓ 「みどり」の活動に何が必要か。
- ㉔ 性別・年齢 ㉕ お住まいの場所 ㉖ 家族構成 ㉗ 住居形態 ㉘ 居住年数

会長

アンケートの設問はまだ案であり、これを持ち帰り意見や提案をいただきたい。市民アンケートは11月上旬に発送し11月中に回収したい。

「みどりの働きについての**実感**」と「みどりの働きについての**重要性**」の設問は似ているが、あえて分けている。「松戸市みどりの市民憲章」に「みどりと暮らす豊かさ」を謳っているが、その実感を得ているか、どのような「みどり」の豊かさを求めているかを知るために重要な設問だと思っている。

委員

前回の委員会で、委員より松戸市への転入者にその動機が「みどり」であることが分かるアンケートが行われるとよいとの意見があったが、このアンケートでクロス集計ができるか。

会長

大学でクロス集計等を行い解析を加えたい。住んでいる地域ごとに格差や居住年数で違いができることは分析できる。「みどりの豊かさを重要視しているが、実感はできていない」となればそれを評価していかなければならない。

委員

「あてはまる全てに○を」という回答方法が多いが、自分ならすべてに○を付ける。

会長

みどりに深く関わる人ならあり得る。例えば、3つまで○を付けると設定すると、4つめを付けたものがすべて無効になる。であれば解答欄を3つ設置してすべて記入する方法もある。

委員

「次世代に継承したいみどりは？」の設問は 3 つまで書くことになっているが少ない。自分ならば 10 個は書きたい。

会長

検討の時点では、一般の人にとって 3 つは多すぎるのではという意見もあった。

委員

松戸のみどり再発見ツアーで行うアンケートでは具体的な場所はほとんど出てこない。多い人で 2 箇所。

会長

アンケートを 3,000 枚配布し、約 30%の回収で 1,000 通とイメージし、各々が 2 件記入すれば 2,000 箇所となり、それを上からランキングすると全体が見えてくる。

委員

回答者が「主婦」か「都内で働く人」では大きな違いがあり、職業を尋ねる欄が必要。

委員

前回の委員会において、第 9 期緑推進委員会が第 10 期委員会に引き継ぐ課題として、外から見た松戸を意識した「緑のシティプロモーション」の項目があり、松戸市への転入者や企業が松戸の「みどり」にどれほど魅力を感じているか、あるいは転入の理由に「みどり」がどれ程の大きさあったか調べられたらおもしろいという趣旨の提案があったが、「居住年数の問い」をクロスすれば分析できるのではないか。

「必要なみどりの施策」の設問に「民有樹林地の保全活動」は記されているが、事業者や企業の事業所の緑化も選択肢に入れた方がいい。企業市民という言葉があるが、松戸市では事業者や企業に対して緑とどう関わっていかうとしているのか、可能なら早い段階から事業者はこの取り組みを知らせ、難しいかと思うが緑化や緑の推進に対する事業者の考え方や今後の協力を得るためにもアンケートをやっておいた方がよい。市民は緑の利用者としてまたは自身の土地を自分で緑化する両面を持っているが、企業も同様に松戸で事業を行おうとした時に、松戸の緑環境がどう見えるかの視点と、企業が緑化の主体として CSR やメセナでどのように協力できるか、または意向があるかを確認するのも大切だと思う。「緑の基本計画」の中で事業者をどう考えていくのかも課題となる。個人的に松戸市は事業者に対し緑化への協力が弱いと感じる。

会長

非常に重要な指摘だった。第 8 期や 9 期の委員会においても、狭義の市民（地域住民）については課題として議論を行ってきたが、企業や事業者とどう絡むかは課題としたまま棚上げをしてきた。アンケートは難しいかもしれないが、サロンにおいて何か検討できないか。

事務局

「みどりと花の基金」は協賛金として寄附金・助成金を企業等から受けており、そこを手掛かりにする方法はあるかもしれない。

委員

アンケートの調査表は既に作り込まれており意見は無いが、これは「緑の基本計画」を策定するための基礎的な情報として使われるのか。私自身はこれまで商品やサービスの販売戦略を専門としてきたが、限られた経営資源でプラン作りから実効性のあるものにしていく時、回答方法に「あてはまるものすべてに○」ではどの施策を優先的に行うかは明確にならない。例えば回答者に 3 つを選ばせその優先順位をつけることで、今後限られる予算から「この施策は 3 年

後に実現する」「5年以降に着手する」というようなシナリオを作ることができる。回答方法はそれを意識する必要がある。

「みどりの働きについての実感」の設問は現状評価として重要な切り口の質問だが、「緑の基本計画」を策定する時には、今後充実を望む期待度や重要度が分かる切り口の質問が欲しい。「みどりの働きについての重要性」の設問で、これを「みどりへの期待」として捉え、これに関わる施策を優先順位をつけて書き込むことができる。

会長

「みどりの働きについての実感」と「みどりの働きについての重要性」は重要な設問となるので表現を考える。回答者に意見を問うものは、絞り込みも意識する。アンケートは今日の意見を参考に事務局と調整して決定する。

③ 基本計画の方向性について

LAU

資料 3-1 は第 8 期と第 9 期の委員会での意見をまとめたものになっている。第 8 期委員会では特に「松戸駅周辺のまちづくり」について集中的に審議。太枠内は第 9 期委員会とアドバイザーの意見をまとめたもの。右表は現「緑の基本計画」の組み立てに沿って出された意見を大きく整理した。左下は「緑の基本計画」あるいは、緑全般についての意見抜粋。中間に第 10 期委員会に引き継ぐ課題。

資料 3-2 は緑推進委員会の意見を踏まえ、計画のたたき台として整理をしたものであり、次期基本計画内に記述することになるとと思われる内容を整理したものとなっている。

P1 では、

1. 計画の前提 「緑の基本計画とは何か」という計画の背景を整理しつつ、計画の期間今回の計画は 2020 年から 20 年を一つの期間とするが、現基本計画の改定と同様に 10 年で見直しを考える。また、現状で「緑」と「みどり」（みどりの市民憲章・市民力）を使い分けているが整理の必要がある。緑の機能も整理する。

2. 計画の基本理念 「松戸みどりの市民憲章」を基本理念としながら「みどりの市民力」はその推進力（エンジン）となるという大きな理念を掲げ計画を策定していく。

3. 緑の現況と課題 参考資料は緑の現況調査を踏まえたものを整理していく。現行計画（旧計画）がどのように進んだのかの整理。細かな施策はみどりと花の課・公園緑地課以外にも絡んでいるのでヒアリングを行いながら整理していく。

P2、P3 では、「みどりと暮らす豊かさ」をどのように捉えるかについて簡単に整理し、これに関連する現状を松戸市の全体図に落とし込んでいる。例えば、松戸市の市民が緑に関わっている「花壇づくりボランティア」「里やま活動」「公園愛護活動」は市の全域の広範囲で行われており「みどりの市民力」の現状を読み取れる。

P4 では、

4. 計画の目標 として、みどりの将来像を松戸市の全体図に示した。将来像のイメージは、緑推進委員会が出された意見から選び、それに向けた「基本方針」と「目標」を掲げた。特に目標とする目安として、緑被率や一人当たりの公園の面積が設定されているが、物理的な緑の量と共に豊かさの実感を測る指標としてアンケートを連動させる。現状のみどりの豊かさの満足度をアンケートで確認し、施策として実施することでそれがどれほど上昇するか。今後 10 年後の

アンケートをすることでわかる。緑との関わりの実感や幸福感、みどりや自然環境に対する満足度、愛着のある緑や水辺のある場所の有無・数・訪問頻度、子どもたちの居場所・遊び場の数を指標とする。みどりの市民力を測る指標としては、活動団体数や参加者数や緑地の割合。みどりの質の向上として、環境学習やイベントに利用されている緑地の数、洪水リスクを緩和する緑地の整備数が指標となるが、これらを今後どれだけ増やせるかを目標としその指標を掲げている。

P5では、

5. 施策の展開として、緑推進委員会での意見をまとめテーマとして分類した。「みどりとオープンスペース」の対象は未利用地、公共施設敷地、住宅、事業所、街路樹、散策路、サイクリングロードなど。方向性としては、未利用地を含めオープンスペースをいかに創出するか。子どもたちの遊べる場所を確保。施設の緑化も含まれる。「里やまのみどり」は松戸の大きな特徴であり、樹林地の保全と活用と次のステージへ向けた展開が大きな方向性。樹木・樹林地保全活用からさらに担保性の向上させることも重要。フォレスト・マネジメントのプログラム、人材育成、収益や雇用の確保検討が今後の展開として考えられる。「公園緑地」は今後公園が大きく増えることは考えにくい。維持、リニューアルを如何にし、活用していくかにシフトしている。「農地・農のみどり」、「松戸駅周辺のみどり」は近い将来のテーマとなる。また、黄色の部分はそういったものを支える「持続可能な仕組み」として、みどりの市民力としてのそれぞれの活動が活発化しネットワークすることが考えられる。ピンクの部分は「みどりを守り育てる意識」として、子どもたちを含め一般市民の意識を啓発し情報を提供し、さらに市民力に関わってもらおうというまとめ方をしている。

会長

説明のあった資料はこれからの議論に先立ち全体像をとらえるためのもので、内容は何も決まっていない。今後来年3月までにつくる「計画の骨子」として、この資料のようなものを作るために、議論していく上でのたたき台として了解されたい。今ある材料で基本計画を作った場合、最初の計画の前提理念をどうするか、現況課題をこのように把握して計画の目標・方針を立て、それに向け例えば5ページにある具体的な施策をどのようにやっていくのかを考えていく。このような方針で行うことを理解されたい。

事務局

次の「緑の基本計画」では、「松戸のみどりの市民憲章」にある「みどりと暮らす豊かさ」というフレーズにこだわりたい。何となくやわらかくて、心地のいい言葉だが、どんな状況・状態を指すのかを掘り下げ、「みどりと暮らす豊かさ」の具体的なイメージについて委員の意見をいただきたい。**資料3-3**はそのための資料となっている。

会長

「みどりの市民憲章」は前回の「緑の基本計画」策定後に制定されたが、制定時は確かな位置付けはなく、改定後に位置付けられた。今回の「緑の基本計画」では「みどりの市民憲章」を基本理念の柱とすることを提案する。委員会ではそれを共有するために各委員が考える「みどりと暮らす豊かさ」はどんなものかをご議論いただきたい。これはアンケートに直結し、計画に反映され、目標の中に取り込まれるかもしれない。

策定当時の議論の内容は如何だったか。

委員

基本計画改定時に「みどりの市民憲章」の扱いについて議論がなされたが、あくまで憲法的な

位置付けであり、イメージはそれぞれ持っていたと思うが、イメージや施策を具体化したわけではない。

委員

「みどりの市民憲章」があれば敢えて具体的なことを提示しなくてもよいのではないか。

委員

検討段階では言葉による表現は必要だが、イメージとしての表現で、言葉にしない方がいい場合もある。

会長

ある程度具体的なイメージはここで共有でき、計画の中でつながっていけばいいと思う。

委員

資料での記載の例示は基盤となる地形や景観描写で暮らしに関わる豊かさを表している。

会長

こんな豊かさがあるという意見はないか。

委員

昨夜、12階にある住まいにトンボが飛び込んできたが、豊かさを感じた。

委員

豊かさは幅が広いが、一般的には部屋に花があるだけで豊かさを感じる。

委員

私が生まれて育ったところは今ではコンクリートジャングルになっている。ビルの谷間の一角には小さな森もあるが、松戸に帰ると「これが人の住むところ」だと感じる。江戸川を越えたところを境に様子が変わり、松戸はこれを守らなければならないと思う。東京からビル化の波が押し寄せているが守り切りたい。みどりは心を和ませる力がとても大きいそれを失いたくない。ビルの12階でトンボの飛来を喜んだようだが、都内ではその倍の高さになる。

委員

住まいから見下ろせる場所に子供たちが遊ぶ「とかげ山」と呼ばれる場所があるが、近くに自然が豊かな場所があるのはとても良い。

委員

松戸の良さは豊かなみどりが残っていること。ビルが建つことは仕方がないがそういうものを大切にしてほしい。

委員

戸定邸が復元工事を終えたので再発見ツアーを行ったが、参加者は100人を超えた。東屋近くから富士山を遠望できるが、松戸市内にはそのような高台が点在し、戸定館の館長は松戸の「富士百景」を集めようと呼びかけている。みどりの切れ目に富士山が見えるのも豊かさと感じられる。

委員

新聞に、松戸市の人口の高齢者の割合が30年後には40%になるとあった。「緑の基本計画」は「子ども」だけでなく「高齢者」にとっても良い計画であってほしい。

委員

「豊かさ」は良い言葉だと思う。個人差はあるが感じられること。

資料：3-2-3-3

の例示でいくつかは語尾に韻を踏んでいないものがあるが揃えたほうがよい。今後大きな問題となると考えられる都市農業を「みどり」の側面から捉えると、農業は「市民

農園」としてレクリエーション的な要素が強いが、この前の改定からも、それによらず営農の継続としての切り口でも取り上げてよいのではないか。「農」という「みどり」が身近にあるので安心・安全な農産物が食べられる。営農に関わる地産地消ともいえる「食べる」というキーワードがあってもいい。

会長

松戸では「矢切ネギ」や「梨」などが代表的な農産物か。

委員

矢切では若い農家が主体となって、都内のスーパーマーケットと連携し売り場を設置し販売している。

委員

「食」はみどりの恵みとして実感できる。

会長

無人の直売所も多い。

前回の改定では農地がクローズアップされたことにも繋がり、重要な指摘だった。

事務局

資料 1-2 策定スケジュール（案）にあるとおり市民アンケートは来月上旬には発送し、11月中には回答を得て、1/25の委員会には完全なものとはいかないが、集計・解析等の報告をしたい。その下段、「計画の理念等」についてみどりと花の課において専門家会議等での意見や庁内関係課の協力を得て「目標等の検討」「軸となる施策の検討」をおこない、進捗を緑推進委員会の中で報告し、意見を聴きながら3月をまでに「計画の骨子」を決定したい。

委員

完成品は印刷物として出すのか。

事務局

スケジュールとして「緑の基本計画」の完成は平成32年度中と考えている。

今年度は、3月末までに骨子案を印刷物として提示する。また骨子案を提示するタイミングで広報やHPで意見募集を考えている。

委員

このペースで「緑の基本計画」は完成するのか。

会長

他の自治体と比較すると、策定に2年をかけるのは時間をかけている方で、半年でつくる自治体もある。

本日の議論は今後の進め方として「サロン部会の設置について」、「スケジュールについて」、「全体の議論の枠組みについて」を行った。次回の現地調査等を挟み引き続き検討を行っていく。

議事3) その他

→ なし

■ 報告事項

公園緑地課

資料：マгноリアオータムフェス

「マグノリアオータムフェス PROJECT1867」について、徳川昭武は 1867 年にパリ万博が開催され日本の派遣団の代表となり渡欧した。そのパリ万博から 150 年と松戸市政 75 周年を合わせた記念企画として戸定歴史館で企画している事業の総称名称を「PROJECT1867」としている。戸定邸が重要文化財、戸定邸庭園が名勝となり充実したところへ市民に訪れてほしいと企画され、展覧会、講演会、シンポジウム、フードイベント、コンサートを行っている。これまでは戸定ヶ丘歴史公園や 21 世紀の森と広場で行ってきた。

場所：東松戸ゆいの花公園

開催日時：10 月 28 日（日）11 時～16 時

内容：(演奏会) フルートとピアノのデュオ (同時開催) 苔玉づくり、野菜販売、芋煮会

主催：東松戸ゆいの花公園利用促進協議会

昨年 6 月に都市公園法 17 条の改正を受け、今年 3 月に協議会を立ち上げ、その最初の大きな事業であり、今後公園の活性化に向け支援していく。

協議会のメンバー：地元 2 町会、これまでマグノリアコンサートを行ってきた実行委員会、結の会（公園のボランティア）、松戸市

会長

他に協議会を立ち上げた公園はどこか。21 世紀の森と広場には予定されていないか。

公園緑地課

現在はゆいの花公園だけ。

21 世紀の森と広場管理事務所

現在検討中。

委員

今週末は駅周辺、戸定歴史館、千葉大学などでも様々なイベントが企画されている。

21 世紀の森と広場管理事務所

第 19 回どこでもシアター

- ・開催日時：11 月 18 日（日）（1 回）11 時～12 時 （2 回）13：30～14：30
- ・内容：音楽をメインとし、試食、物販等を含んだ複合イベント
- ・共催：一般社団法人 STUDIO MOC、松戸市
- ・会場：21 世紀の森と広場 光と風の広場（雨天時は広場の橋の下）

資料：モリヒロフェスタ

今年で第 3 回目を開催する大型イベント。

- ・テーマ：21 世紀の森と広場と松戸市の魅力を市内外に PR しアピールしていく。
- ・開催：実行委員会（実行委員長-福田街づくり部部长）
- ・開催日時：11 月 23 日（金. 祝日）～25 日（日）3 日間
- ・ラーメンサミットは、松戸市の有名ラーメン店中華蕎麦とみ田の尽力で 6 店舗のラーメン店が開店。集客によりふだん公園を利用しない市民に公園の魅力を知ってもらう。他に、市内の飲食店、物販店に公募を行い厳正な審査を通過した 30 店舗が「松戸集まるしえ」として出店する。
- ・「TRAVEL SWING MARKET」 光と風の広場 音楽を聴きながらのんびりとロハスな雰囲気味わえる。
- ・「まつど大農業まつり」 JA とうかつと共催

・「松戸市国際文化祭」 森のホール入口

多くのイベントが同時開催されるので多くの来園者や駐車場の混雑等予想される。

・PRブースにおいて「みどりと花の課」「みどりと花の基金」「里やま応援団」等のみどり関係者がイベントに参加いただき感謝する。緑推進委員の来園も頂きたい。

会長

「大農業まつり」は「モリヒロフェスタ」の一部に組み込まれたのか。

21世紀の森と広場管理事務所

「大農業まつり」と「松戸市国際文化祭」は全く別の枠組みで実施するイベントだが、「モリヒロフェスタ」の告知で記載がないと開催の有無が分からなことが考えられる。誤解が生まれる可能性はあるが、このようなかたちになった。

会長

21世紀の森と広場には、駐車場スペース等考慮すると、来園者のキャパシティーは2万人と考えられる。昨年も、アートのイベントと「モリヒロフェスタ」を同時開催して混乱した経緯があり、利用者を増やすには日程を分散した方がよいのではないかと。同時開催によるメリット・デメリットを検討してはどうか進言する。

みどりと花の課

里やまボランティア入門講座 2018

- ・今年 16 回目
- ・10月18日（木）に第1回目を開講し、毎週木曜日に全5回の日程で行う。
- ・受講生 … 15名
- ・緑推進委員会から参加 高橋盛男委員（スタッフ兼グループワーク講師）
柳井会長（みどりについての講義）
小嶋委員（樹林地所有者として）

事務局

次回11月16日（木）は委員会として現地視察を行う。

- ・時間：（議会棟前集合）午後1時→（解散）午後5時
- ・行程：矢切の斜面林や農地、国分川沿い多自然型護岸、常盤平地区公園・街路樹、樹林地、市民農園、生産緑地、金ヶ作育苗圃

会長

以上をもって、第2回松戸市緑推進委員会を閉会する。

以上